

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年3月31日現在

今月の重点活動

■えだまめ JAぎふえだまめ部会に若手部が発足

3月6日、JAぎふえだまめ部会に若手生産者25名で構成する若手部が発足した。

若手部は、各生産者の経営安定や資質向上を図ることと、岐阜えだまめの維持・発展に向けた新たな取り組みなどを立案し、部会に提案していくことなどを目的としている。若手部長からは、「産地が発展していくよう力を合わせて頑張ろう。」といった力強い発言があった。

今後、農業普及課では、関係機関と連携し、若手部の活動支援を行い、産地を牽引していく若手リーダーの育成を図っていく予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【若手部発足の様子】

活力ある新産地づくり

■アスパラガス PR活動を実施

3月25日、羽島市の桜堤サブセンターで開催された背割堤さくらまつりにおいて、羽島市産アスパラガスのPR活動を行った。

当日は、羽島市産アスパラガスを使ったアスパラドックの試食や即売会などが行われた。

農業普及課は、JAぎふ羽島市アスパラガス部会員や市、JAぎふ担当者とともに、アスパラガス産地のPRとアスパラガスの認知度や購入行動などのアンケート調査を行った。今後、アンケート調査結果を分析し、PR活動や産地振興に繋げていく予定である。

(園芸産地支援第一係・松浦香絵)



【PR活動の様子】

多様な担い手づくり

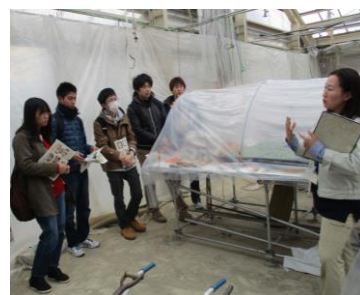
■いちご・えだまめ 現場見学ツアーで普及業務をPR

3月1日、岐阜市のいちご及びえだまめの生産ほ場において、平成28年度岐阜県技術職員「清流の国ぎふ」現場見学ツアーの第2回が開催され、県職員を目指す学生8名が参加した。

農業普及課からは、両現場において、産地の状況、普及指導員の業務内容や生産者との連携など詳しく説明を行った。

参加者からは、「えだまめの一番美味しい時期はいつですか?」「生産者の指導で一番気をつけていることは何ですか?」など、様々な質問があり、普及指導員の仕事を理解してもらった。良い機会となった。

(園芸産地支援第一係・三和浩一、川部 知)



【普及業務説明の様子】

売れるブランドづくり

■小麦 縞萎縮病発生状況調査を実施

岐阜管内では、平成25年に「農林61号」から「タマイズミ」へ全面切り替えが行われ、平成29年産で作付開始5年目となるが、縞萎縮病の発生が確認されており、岐阜市においても、特に連作している地域を中心に年々被害が拡大している。

縞萎縮病は土壌伝染性ウイルス病であり、1度発生すると少なくとも4～5年間は休作しても無病化しないとされているため、発生地を拡大させないよう対策を取る必要があり、岐阜市内の全ほ場80.9haの発生状況の確認を行い、直ぐできる対策(窒素成分1～2kg/10aの追肥施用等)と拡大させない管理について生産者に説明した。



【関東141号とタマイズミ】

現在、縮萎病抵抗性品種「関東 141 号」の試験を行っており、現時点では縮萎病の発生もなく（同一ほ場内で栽培しているタマイズミは発生）、非常に順調に推移していることから、引き続き、実需者ニーズに合った品質・収量を得られるよう、管理を行っていく予定である。

（地域支援第一係・丹羽宣子）

■いちご 目揃会を開催

3月7日、JAぎふ北方支店において、JAぎふ岐阜市いちご部会の目揃会が開催され、JA全農岐阜担当者から情勢報告を受けた後、市場担当者から出荷規格や過熟果対策としての着色基準の遵守について説明があった。

農業普及課からは、今後の栽培管理ポイントについて指導を行い、農薬メーカーからは、ハダニ類の天敵農薬であるバンカーシートの概要について説明があった。

今後農業普及課では、関係機関と連携し、いちごの安定生産に向けた栽培指導や栽培技術情報の提供などを行っていく予定である。

（園芸産地支援第一係・三和浩一）



【目揃会の様子】

■さといも 栽培講習会を開催

2月28日、JAぎふ各務原中央営業所において、各務原市園芸振興会さといも部会の平成29年産栽培に向けた栽培講習会が開催された。

昨年末は比較的暖冬であり、凍みよりカビが多く見られたため、市場担当者からは、毎年安定した品質・A品出荷を要望された。

農業普及課からは、平成29年産に向けた栽培管理や病虫害防除、滞水時の排水対策等の説明を行った。出荷調整方法の指導、栽培品種の統一、品質向上など、今後もJAぎふと連携して推進していく予定である。

また、平成28年度さといも共進会の表彰が行われ、栽培者相互の研鑽や技術向上につながることを期待している。

（地域支援第二係・水川真弓）



【栽培講習会の様子】

■ぎふクリーン農産物 更新講習会を開催

3月23日、山県市の伊自良中央公民館において、(有)天湖森いじらぎふクリーン農産物生産部会のクリーン農業登録更新講習会が開催され、部会長からは、学校給食の出荷を増やすために種や苗の供給を検討していることを会員に説明していた。

農業普及課からは、ぎふクリーン農業制度及び登録者の責務、学校給食用のじゃがいも、ほうれんそう、スイートコーンの栽培ポイントとともに、学校給食へ出荷する際の注意点についても説明した。

（地域支援第三係・小椋正大）



【講習会の様子】

住みよい農村づくり

■女性起業 新商品を携えて試食PR

瑞穂市の柿りんは、平成26年より試作してきたパッションフルーツ入り柿ジャムをついに商品ラインナップに加え、3月15日、名古屋市のオアシス21「ジ・フーズ」で試食PRを行った。

県農産物イメージアップ事業を活用したチラシ等も配布してのPRに、材料フルーツが全て瑞穂市産の自慢のジャムは、来客者から高い評価が得られ、会員は今後の売上に手応えを感じていた。

3月18、19日は、瑞穂市水と緑のマルシェに出店、3月20日には可児市の湯の華市場で試食会を開催し、柿ジャムや新商品のPRも行った。農林事務所は、チラシ等作成支援等を行った。（地域支援第三係・横田京子）



【新商品をPR】